

意外に知らない、知っていても実践していない 自分の身を守るための方法とは

年号も令和へと変わり、昭和・平成の常識が次々と塗り替えられる時代になりました。もちろん、そのなかには法律や働き方も含まれています。

社会に多種多様な価値観が広がったなか、それまでの考え方では通用しなくなっていることはたくさんあります。昭和入社の社員から新入社員まで、年代もバラバラで考え方も異なる人間が集まるのですから、そこには軋れきや衝突が起きるのは当然のこと。たとえ自分のことではなくても、いつ我が身に降りかかるかはわかりません。そんなときに必要になるのが“自分で自分を守る方法”です。

このテキストの第1巻「職場編」では、働いている職場で起き得る、気を付けるべきこととその対処法などを紹介していきます。

コンプライアンス違反、ハラスメント、情報漏えい、ハッキングなどは、自分でしっかりと意識して予防していなければ、いつ当事者になるかわからないことばかり。しかも、いざその立場になったときはもう手遅れ……。

そんなことにならないように、「何が自分にとってリスクなのか」を知り、「リスクを防ぐためにしなくてはいけないこと」をぜひ実践してください。

現在では法の整備が進み、社会問題に対しては厳しい罰則も用意されています。職場で出合うリスクを理解してその回避法を身に付けましょう。

また、「現場にいたけれど知らなかった」では済まされないこともたくさんあります。職場に問題があったときには、きちんと周囲にリスクを説明して健全な環境を整えるように務めましょう。それも、加害者の一人として扱われるリスクを回避するためにも必要なことなのです。

はじめに	3
------	---

第1章

法令を遵守し、倫理的な行動をとる

Lesson 01 > コンプライアンスとは何か	10
--------------------------	----

法律や規範を守る企業であることが求められる時代／法律や規範を守るしくみを持つ「コンプライアンス経営」

Lesson 02 > 厳しくなる規制と社会の視線	12
---------------------------	----

不祥事続発でコンプライアンスを重要視／コンプライアンスが企業の生き残りを左右する

Lesson 03 > 身近に潜むコンプライアンス違反	14
-----------------------------	----

もっとも起こりやすい違反は情報漏えい／コンプライアンス違反の指示は拒否

Lesson 04 > コンプライアンス違反がもたらす影響	16
-------------------------------	----

コンプライアンス違反企業が負う法的責任／違反した企業は社会的責任も負う

Lesson 05 > 知っておくべき法律と内容	18
--------------------------	----

コンプライアンスでもっとも重要な「会社法」／金融商品の公正な取引を定める「金商法」

Lesson 06 > コンプライアンス違反に遭遇したら	20
------------------------------	----

「スピード感」と「冷静さ」が必要／「企業のレベル」を個人レベルでも実行

Column > 職場で大地震が起きたとき	22
-----------------------	----

第2章

ハラスメントのない職場をつくる

Lesson 01	職場のハラスメントの現状	24
増えつつけている職場の様々なハラスメント／被害者・加害者にならないために正しい知識が必要		
Lesson 02	ハラスメントにまつわる主な法律	26
企業がハラスメントの法的責任を問われる／ハラスメント防止を義務化するその他の法律		
Lesson 03	パワーハラスメントを正しく知ろう	28
法律で示された「パワハラ」の定義とは／パワハラではない例を把握しておく		
Lesson 04	モラルハラスメントとは何か	30
倫理や道徳に反した精神的な暴力「モラハラ」／メンタルヘルス不調の原因にも		
Lesson 05	相談数が一番多いセクシュアルハラスメント	32
防止措置が義務づけられているセクハラ／セクハラの実態／セクハラかどうかは受けた人の感じ方で決まる		
Lesson 06	まだある、多種多様なハラスメント	34
マタハラやアルハラは大きな社会問題／身の回りにある様々なハラスメント／悪気がない行為でもハラスメント		
Lesson 07	ハラスメントのない職場にするために	36
まずハラスメントの実情を正確に把握する／ハラスメント防止に重要なのは管理職の役割		
Lesson 08	ハラスメントの解決手段	38
ハラスメントが起こったとき会社がすべきこと／ハラスメントにあったら我慢せずすぐ相談		
Column	職場での大雨・大型台風の対応法	40

第3章

情報を適切に管理し、流出を避ける

Lesson 01	個人情報保護が求められる背景	42
	適切な個人情報の取り扱いを求める「個人情報保護法」／一瞬で個人情報が広まってしまう危険性	
Lesson 02	何が個人情報にあたるのか？	44
	個人を特定できる情報が「個人情報」／個人情報保護法改正で導入された「個人識別符号」	
Lesson 03	個人情報取り扱いの大原則	46
	事前に個人情報の取り扱い方法を決めておく／個人情報を取り扱う上でのルールを具体化する	
Lesson 04	個人でできる個人情報保護	48
	特に重要な個人データ流出を防ぐ／IDとパスワードを設定し個人情報を守る	
Lesson 05	部署でできる個人情報保護	50
	全部署の個人情報をすべて洗い出す／個人情報の適切な保護・管理を行う体制づくりを	
Lesson 06	会社でできる個人情報保護	52
	個人情報漏えいを防ぐ全社的な取り組み／ルールが守られているか定期的に監査を行う	
Lesson 07	個人情報を提供するとき、されるとき	54
	個人情報の「第三者提供」とは／権利や利益の侵害に繋がる個人情報漏えい	
Lesson 08	個人情報を預けるとき、預かるとき	56
	個人情報の「委託」と「提供」の違い／お客様に代わって個人情報を預かる場合	
Column	職場で火事を防ぐには	58

第4章

ウイルス等からデバイスを守り、 情報を奪われるリスクを減らす

Lesson 01	PCにまつわるリスク	60
PC紛失による情報漏えいリスク／PC紛失による情報漏えいリスクを避けるには		
Lesson 02	セキュリティ	62
インターネットを通じたPCの脅威／会社デバイスでSNSに接続する危険とは		
Lesson 03	迷惑メール	64
不特定多数に大量に送られる迷惑メール／迷惑メールを規制する「特定電子メール法」		
Lesson 04	コンピューターウイルス	66
コンピュータ内に侵入し増殖する「ウイルス」／ウイルス対策にセキュリティソフトは必須		
Lesson 05	マルウェア、ランサムウェア	68
PCに害を与えるソフト「マルウェア」／身代金を要求する「ランサムウェア」		
Lesson 06	不正アクセス	70
なりすましで情報や金銭が盗まれる／不正アクセスで被害者が加害者になりかねない		
Lesson 07	デバイスを持ち出す際に気をつけたいこと	72
デバイス持ち出しによる情報漏えいのリスク／ソフトでデバイスを制限する		
Lesson 08	サポートが切れたOSを使い続けるリスク	74
サポート切れPCはウイルスに感染しやすくなる／会社存続の危機に陥ることも		
Lesson 09	スマホやタブレットを守るには	76
スマホをいつも最新の状態に／怪しいアプリはインストールしない		
まとめ	Summary	78

第1章

法令を遵守し、 倫理的な行動をとる

Lesson

学習予定日

学習実施日

01 コンプライアンスとは何か

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

02 厳しくなる規制と社会の視線

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

03 身近に潜むコンプライアンス違反

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

04 コンプライアンス違反がもたらす影響

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

05 知っておくべき法律と内容

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

06 コンプライアンス違反に遭遇したら

__ 月 __ 日 __ 月 __ 日

コンプライアンスとは何か

コンプライアンス＝法令・規範の遵守

法令

- 法律で決められていること
→違反すると罰則アリ

規範

- 道徳・道義的な決まりごと
→違反しても法的な罰ナシ

POINT!

コンプライアンス経営＝上記を守った経営
(法律・命令・社内外ルール・倫理・社会的規範)

罰則がないなら
法を犯しても…

非道でも
罰がないなら…



過去

「お金を儲けられればいい」
「自社だけがよければいい」

法の不備を
つくのは
よくない！

罰がなくても
信用は失うよ！



現在

「正しい方法で経営する」
「社会的責任を果たす」

▶ 法律や規範を守る企業であることが求められる時代

「コンプライアンス (compliance)」は「法令遵守」と訳されますが、一般的には、企業が社会的な通念や規範、倫理、法律などに反することなく企業活動を行う「企業コンプライアンス」を指します。

「法律を守る」「道徳に反しない」というのは当然です。しかしコンプライアンスが近年になって重要視されるようになったのは、違法行為・道徳に反した行為など、企業による不正や不祥事が相次いで発覚し、社会的批判が高まったことが原因です。企業が良い商品を開発して企業価値を高めたとしても、コンプライアンスに反する行為が発覚すれば、消費者や取引先の信用は失われます。

早くから企業に対して社会的責任や公共的使命を求める意識が高かった欧米では、守るべき種々の業務マニュアル、守秘義務、社内ルール、行動指針などを策定した「コンプライアンス・プログラム」を定めたり、社員が守るべき「コンプライアンス・マニュアル」を作成するなど、様々な取り組みが行われてきました。

▶ 法律や規範を守るしくみを持つ「コンプライアンス経営」

企業が法律や規範を守るしくみを取り入れ、様々なリスクに迅速に対応できる経営を「コンプライアンス経営」といいます。

コンプライアンス経営で遵守すべきルールは次の3種類にまとめられます。

- ①法律、命令、規則など法規範
- ②社内ルール、業務マニュアル
- ③倫理、社会的規範

①には、他に国の政令、省令、通達、地方公共団体の条例などが含まれます。②は、業務上の秘密保持義務に関するものや経理的なルールなど。③には、企業理念、企業の倫理的・道徳的な価値観などが含まれます。

2006年には証券取引法および会社法の改正により、金融商品取引法として上場企業がこれらに反していないかの内部統制報告書を提出する制度が導入されました。実質的にコンプライアンス経営を行っているかどうか証明する義務が課されたといえます。

厳しくなる規制と社会の視線

規制が強化された理由は？

＝虚偽報告で大手企業倒産（2000 年代）

→大きな社会的影響を避けるため



- ・護衛船団方式の終了（官庁の助けがナシに）
- ・法的・社会的責任を企業が負うことに
- ・情報社会で市民のチェックも厳しく

虚偽報告が明るみに
なり大変なことに…



企業

仕方がないから
助けましょう



行政

無理です

行政

自己責任
だから…



助けて～



企業

司法



ウソを暴く！

法で裁く！



市民

過去

- ①「悪いことしてて困ったことに…」
- ②「仕方がない。助けてやろう」

2000 年代以降

- ①「②は助けてくれない！」
- ②③「不正は許さない！」

▶ 不祥事続発でコンプライアンスを重要視

企業コンプライアンスが重要視されるようになったのは、2000年代に入ってから複数の大手企業が不祥事によって倒産したり、存亡の危機に瀕したりする事態が続いて起こるようになったからです。

一企業の不祥事が大事件に発展した典型的な例として、アメリカのエンロン事件があげられます。2001年10月、アメリカで最大規模のエネルギー企業エンロン社の利益の水増し計上や、簿外債務の隠蔽などの不正が発覚しました。その結果、同社の株は暴落し、同年末に160億円の負債を抱えて倒産しました。ところが、事件はそれだけに留まらず、同社には**大手監査法人が関与していたことから、アメリカの企業全体に不正疑惑が広がり、米国経済にも大きな打撃を与えました。**

日本でも2002年に電力会社による原子力発電所の点検作業記録の改ざんや隠べいが明るみに出て、原子力発電所17基の運転が停止されるなど、コンプライアンス違反で社会的信用を失う事例も多く見られます。

▶ コンプライアンスが企業の生き残りを左右する

このように大企業も不祥事によって存亡の危機に陥るようになった理由は、社会の価値観やビジネス環境の変化があげられます。

近年までの日本では、大企業は行政の指導のもと多くの企業を従えて経営を行い、**問題が発生した場合でも所轄官庁と相談しながら無難に乗り切る「護送船団方式」と呼ばれる方法をとっていました。**しかし、現在は、規制緩和によって所轄官庁によるコントロールから離れた自由な競争ができる「競争社会」の時代となりました。そのため、**問題が起きて所轄官庁に相談しても以前のように解決できず、問題を起こした企業自身の責任が問われるようになったのです。**

「事前規制型社会から事後裁定型社会へ」と、司法においても企業の不祥事に対して法的な責任追及を求める声が高まっているほか、情報公開制度を利用して不正を監視する消費者の視線もさらに厳しくなっています。そのため、**事前に違法行為などを避けるコンプライアンス経営が企業運営には求められるようになったのです。**